

第1章 目指す子どもの姿

- 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方
- 2 基本目標の達成状況

1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

「輝く よっかいちの子ども」実現に向けて

子どもたちが将来生きていく社会は、多様で変化が激しく一層複雑化し、解決の道筋が明らかでない問題が多く存在すると予想されます。そのため、子ども自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに、他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力としての「社会人になっても通用する問題解決能力」の養成が必要です。

また、教育活動全体を通して、子ども一人一人の実態や課題を踏まえ、豊かな人間性と感性を培うこと、さらに仲間づくりを進めるなかで、集団の中での協調性や他者を思いやる心を育むこと、個々の自主性・自立性を育てること、人権尊重の意識を醸成することが大切です。

本市では、「四日市市教育大綱」を定めるとともに、本市の教育振興のための施策に関する基本的な計画として「第3次四日市市学校教育ビジョン」を策定し、「社会人になっても通用する問題解決能力」を身に付け、学校での学びを自分自身の人生の充実・幸せや将来の社会貢献につなげていく「輝く よっかいちの子ども」の育成を目指しています。

○四日市市教育大綱 ～5つの理念～

- 1 社会人になっても通用する問題解決能力の養成
- 2 豊かな人間性と健やかな体の育成
- 3 夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養
- 4 家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現
- 5 都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進



○第3次四日市市学校教育ビジョン ～6つの基本目標～

「子どもにつけたい力」

- 基本目標1. 確かな学力の定着
- 基本目標2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成
- 基本目標3. 健康・体力の向上

「子どもを支える学校づくり」

- 基本目標4. 学校教育力の向上
- 基本目標5. 地域とともにある学校づくり
- 基本目標6. 四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進



四日市市の教育理念を実現するための基本的な考え方

目指す子どもの姿 **輝く よっかいちの子ども**

生きる力

子どもたちが、夢や志を持ち、学ぶことと社会とのつながりを意識しながら、自立した人間としてたくましく生き抜くための力

共に生きる力

多様性を尊重する心や豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力などを身に付け、他者と協働し、共に未来を切り開いていく力

社会人になっても通用する問題解決能力

自身が身に付けた知識・技能を実生活で応用するとともに他者と協働しながら問題を解決していく主体的・能動的な能力

確かな学力

- ▶ 基礎的・基本的な知識及び技能
- ▶ 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力
- ▶ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

豊かな人間性とコミュニケーション能力

- ▶ 自律的に活動する力、規範意識
- ▶ 豊かな感性、優しさ、思いやり
- ▶ 多様性を尊重し、他者と協働しながら創造的に生きる態度
- ▶ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ
- ▶ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

健康・体力

- ▶ 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力
- ▶ 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣
- ▶ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

学校教育力の向上

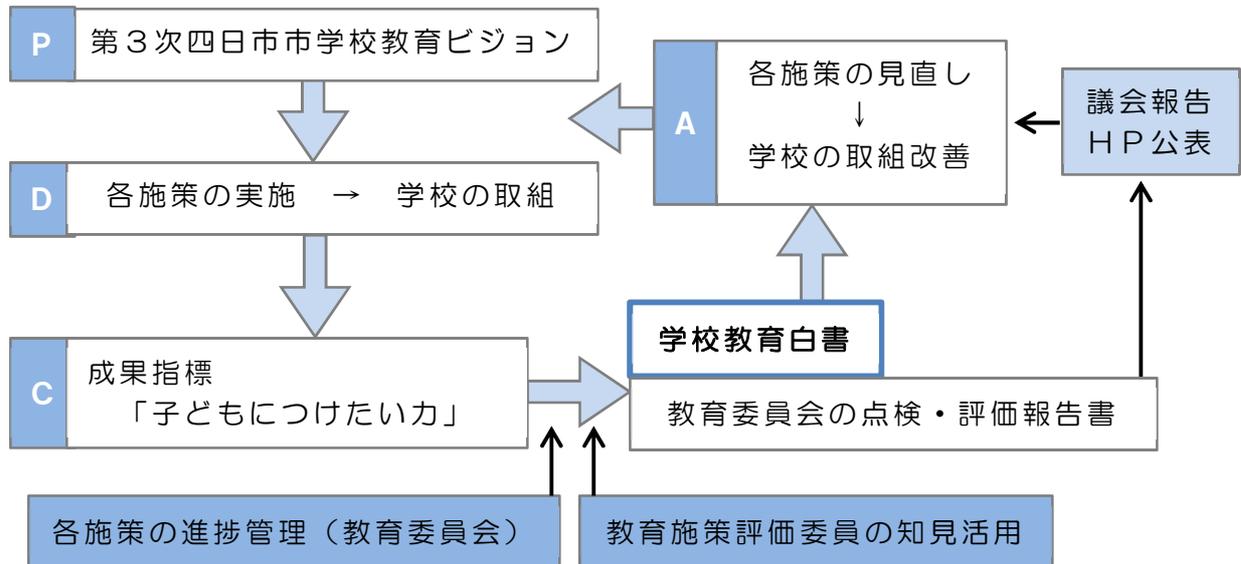
地域とともにある学校づくり

四日市ならではの地域資源を生かした教育の推進

■ ■ ■ 第1章 目指す子どもの姿
 ■ ■ ■ 1 四日市市が進める教育の基本的な考え方

本市では、目指す子どもの姿の実現のため、特に「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づく評価を実施しています。

また、基本目標の各教育施策については、具体的な取り組み指標に基づき、取り組みの進捗管理及び評価をしています。



本白書は、子どもたちの今のすがたや学校の取り組みの現状、今後のあるべき姿を表すとともに、教育委員会の点検・評価報告書の役割も担っています。

2 基本目標の達成状況

第3次学校教育ビジョンの「子どもにつけたい力」基本目標1～3について、成果指標に基づいた評価を実施します。

(1) 「基本目標1. 確かな学力の定着」の達成状況

① 基礎的・基本的な知識及び技能の定着

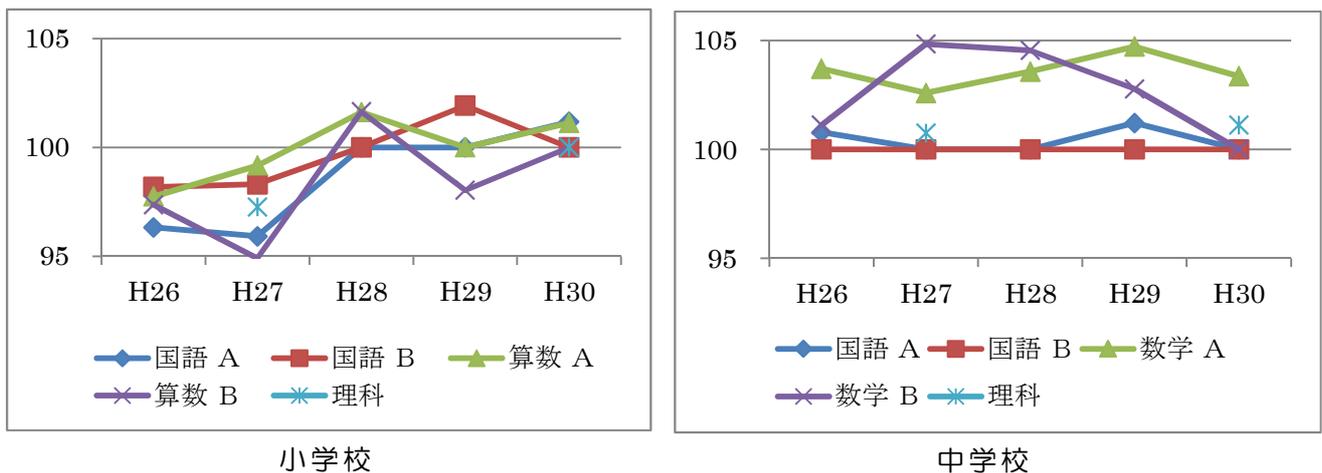
成果指標		現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標	
①	全国学力・学習状況調査結果 (小6…国A、国B、算A、算B、理) (中3…国A、国B、数A、数B、理) 全国平均値を100としたときの全 科目の市平均値	小	97.4	100.5	100.0	100.4			102
	中	101.3	102.0	102.1	100.8			105	

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

基礎的・基本的な知識及び技能の定着については、全国学力・学習状況調査結果における全国平均値を100としたときの全科目の市平均値を成果指標とし、小学校102、中学校105を目標値としています。

平成28年度から、小学校・中学校ともに全科目の市平均値は100に届いています。すべての教科において、全国平均値を上回るか、同等であり、平成21年度から取り組みを進めてきた「学力向上4つの取り組み」（P17参照）による成果であると考えられます。

全国値を100としたときの本市結果の経年変化（平成26年度～平成30年度）



小学校では、平成27年度までは、すべての教科において、全国比で100を下回っていましたが、平成28年度以降は、100を超える教科が多く出ており、改善傾向にあることがわかります。中学校では、小学校6年生時（平成27年度）に、すべての教科が全国比で100を下回っていたことから、中学校の3年間で学力を向上させたことがわかります。

② 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	63.2 (全国 66.9)	67.9 (68.3)	67.3 (68.2)	77.6 (77.7)			80
		中	65.6 (全国 62.9)	67.0 (64.8)	66.3 (64.8)	79.3 (76.3)			80

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成では、全国学力・学習状況調査の質問項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも80%を目標値に設定しています。



平成30年度は、全国平均値も伸びていますが、それ以上に小・中ともに伸びました。本市では教科の特質を踏まえた言語活動の設定を大切にしています。国語科をはじめ、教育活動全体を通して、言語活動によって思考を深め、主体的に判断、表現する授業に取り組んできた成果だと考えられます。

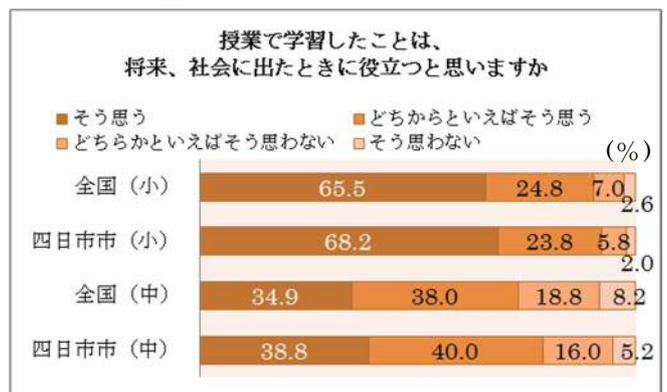
③ 学ぶことと社会とのつながりを意識しながら主体的に学習に取り組む意欲と態度

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
③	「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	89.5 (全国 89.5)	91.4 (89.6)	90.0 (88.5)	92.0 (90.3)			95
		中	79.3 (全国 78.4)	81.3 (78.1)	83.0 (77.9)	78.8 (72.9)			85

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」において肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校85%を目標値に設定しています。平成30年度は、中学校で前年よりも低下したものの、依然、小・中学校ともに全国平均値を大きく上回っています。

「何のために学ぶのか」といった目的意識や「学んだことは将来へどのようにつながるのか」といった将来への展望を持たせるとともに、キャリア教育を意識した授業を推進します。



(2)「基本目標2 豊かな人間性とコミュニケーション能力の育成」の達成状況

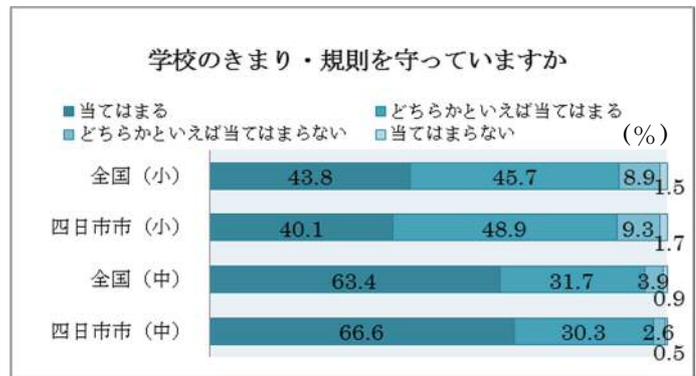
① 自律的に活動する力、規範意識

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
①	「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	91.1 (全国91.1)	91.1 (91.5)	92.9 (92.6)	89.0 (89.5)			95
		中	95.3 (全国94.4)	96.5 (94.7)	97.1 (95.2)	96.9 (95.1)			97

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「学校のきまり(規則)を守っていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校95%、中学校97%を目標値に設定しています。

平成30年度は、小学校で全国平均値をやや下回り、中学校では上回っています。引き続き、日々の学校生活においてルールを守ることの大切さを伝えていく指導を行い、規範意識を高め、目標値を目指します。



② 豊かな感性、優しさ、思いやり、多様性を尊重し他者と協働しながら創造的に生きる態度

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	96.5 (全国96.2)	97.9 (96.6)	96.6 (96.1)	97.9 (96.8)			100
		中	93.3 (全国93.7)	93.0 (93.6)	92.5 (92.8)	96.3 (95.5)			100

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校、中学校とも100%を目標値に設定しています。

平成30年度は、小・中学校ともに前年より上昇し、全国平均値を約1ポイント上回るなど高い値となっています。

いじめについては、絶対に許されないということを見学・生徒全員に理解させることが必要です。今後も全教育活動を通じて、学校生活の中で実践できるよう、粘り強く指導していきます。



③ ものごとを最後までやり遂げる粘り強さ

成果指標			現状値*	H29	H30	R1	R2	目標
③	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	79.5 (全国 77.8)	78.7 (77.9)	77.8 (76.7)			80
		中	77.2 (全国 73.8)	79.0 (74.9)	76.3 (73.8)			85

※ 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目の変更を受け、平成30年度からは「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う」において肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校80%、中学校85%を目標値に設定しました。

平成30年度は、小・中学校とも全国平均値を上回っています。児童生徒が主体的、協働的に学ぶ意欲・態度を育むような教育活動をおおむね実践することができていると考えられます。引き続き、主体的に学習に取り組む姿勢を養うとともに、達成感の感じられる授業づくりを推進します。

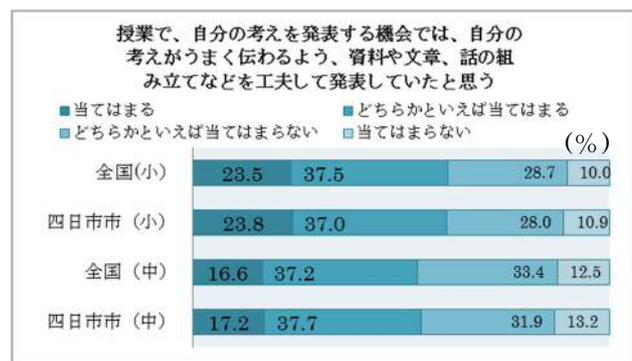


④ 豊かな人間関係を育むためのコミュニケーション能力

成果指標			現状値*	H29	H30	R1	R2	目標
④	「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」において肯定的な回答をした児童生徒の割合(%)	小	64.4 (全国 64.2)	65.8 (64.9)	60.8 (61.0)			70
		中	59.7 (全国 57.7)	59.9 (57.9)	54.9 (53.8)			62

※ 現状値は、平成28年度全国学力・学習状況調査結果(小学校6年生・中学校3年生対象)

全国学力・学習状況調査の質問項目の変更を受け、平成30年度からは「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思う」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合を指標とし、小学校70%、中学校62%を目標値に設定しました。平成30年度は、全国平均値と比較し、小学校はほぼ同等、中学校は上回っています。今後も日常的活動である1分間コメントや、弁論大会等を意識した話す力を高める単元の設定など、児童生徒の考えや意見を発表する場を設け、コミュニケーション能力を育成する取り組みを進めます。



(3)「基本目標3 健康・体力の向上」の達成状況

① 生涯を通じて心身ともに健康でたくましく生きるための体力

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
① 全国体力・運動能力、 運動習慣等調査 児童生徒の総合評価 (A～Eの5段階)で 3段階以上(A～C) の児童生徒の割合 (%)	小	男子	66.9 (全国70.1)	67.4 (70.3)	71.0 (71.2)	71.1 (71.2)			75
		女子	70.2 (全国75.1)	74.0 (76.3)	75.3 (77.0)	76.9 (77.5)			75
	中	男子	74.2 (全国71.1)	72.7 (71.8)	73.0 (71.7)	74.4 (72.3)			75
		女子	85.5 (全国86.6)	89.8 (87.5)	90.2 (88.1)	91.0 (89.2)			90

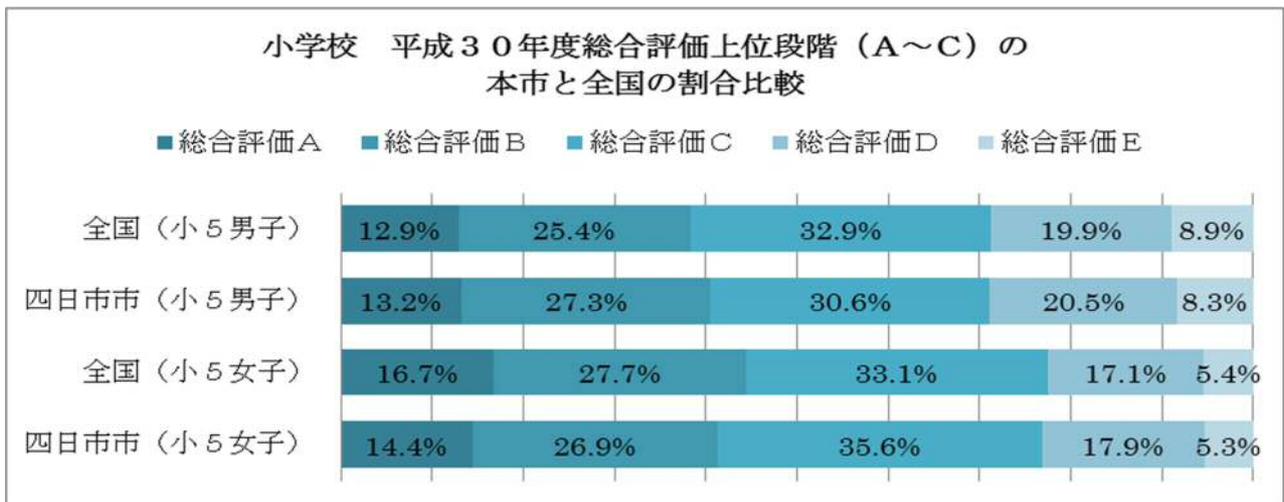
※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国体力・運動能力、運動習慣等調査児童生徒の総合評価（A～Eの5段階）で3段階以上（A～C）の児童生徒の割合を指標とし、小学校及び中学校男子において75%を、中学校女子において90%を目標値に設定しています。

○小学校の状況

男子では総合評価A～Cの生徒の割合は71.1%（全国比マイナス0.1ポイント）、女子では76.9%（全国比マイナス0.6ポイント）となり、男女ともに全国平均値を下回る結果ではありますが、過去6年間で最高値となりました。

全国平均値との差も、平成27年度は男子で3.2ポイント、女子で4.9ポイントでしたが、年々、縮まってきました。



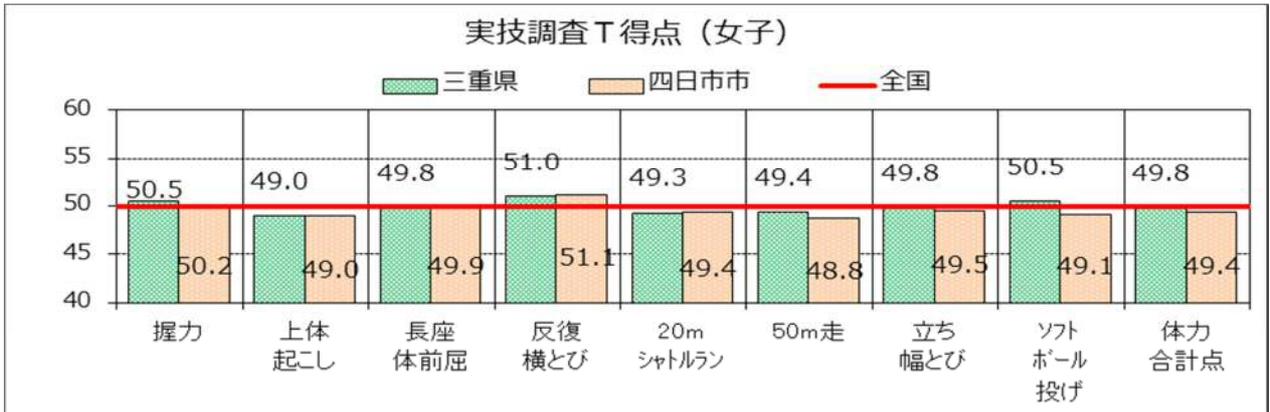
種目別に見ると、昨年度の全国平均値との差が見られた上体起こしや50m走、ソフトボール投げも、少しずつ差を縮める結果となりました。しかし、依然として走・跳・投の力や上体起こしに必要な筋力については、全国平均値を下回っています。

これらの能力を伸ばすために、平成29年度に配布したジャベリックボールを、授業や体育的活動で工夫して活用できるよう、教員の研修会を行っています。また、走力を高めるために、授業の中で、走る心地よさを味わわせるとともに、地面をしっかりと蹴って

第1章 目指す子どもの姿
四日市市が進める教育の基本的な考え方

スタートダッシュができるよう、身体の使い方を身につけさせるような学習をする必要があります。

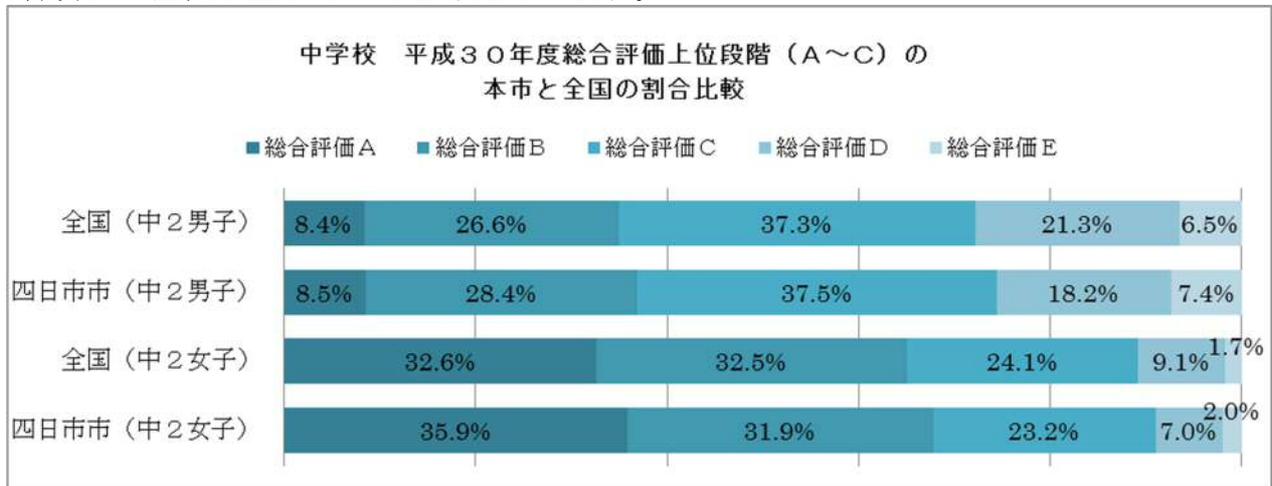
さらに、運動を行ううえで身につけさせたい体幹や筋持久力を養うために、休み時間の外遊びの機会を増やしたり、遊具や鉄棒などの固定施設を使った運動や遊びの機会をつくったりするなど、体育の授業以外の時間にも運動に親しむ機会の確保が必要です。



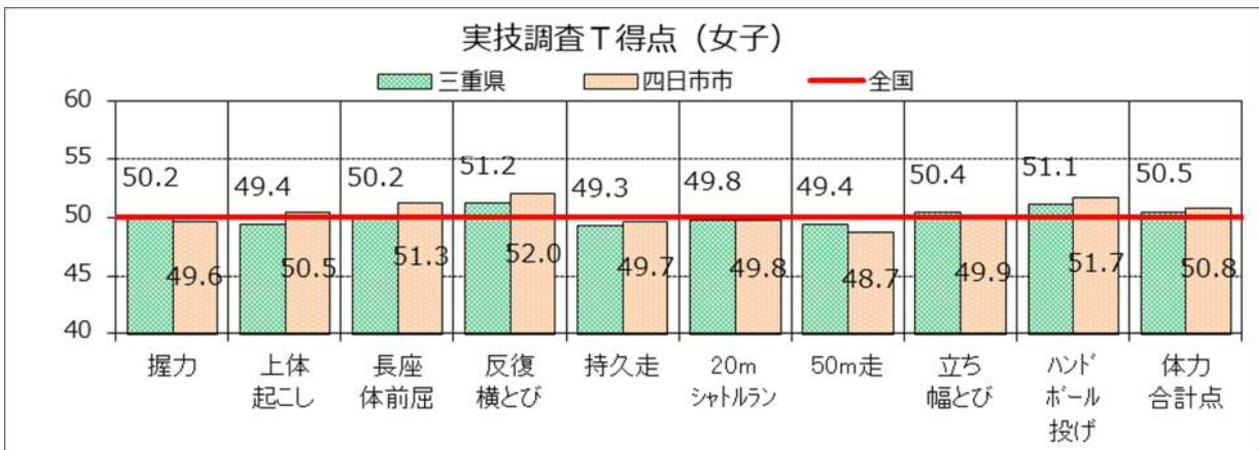
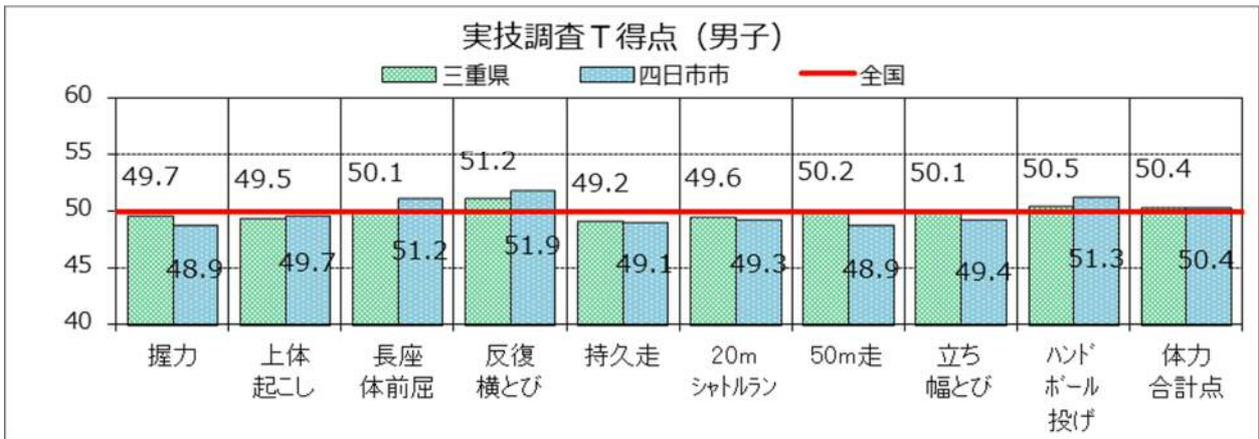
小学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較
※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

○中学校の状況

男子では総合評価A～Cの生徒の割合は74.4%（全国比プラス2.1ポイント）、女子では91.0%（全国比プラス1.8ポイント）となり、男女とも過去6年間で最高値となりました。一方、E判定の割合も全国と比べ高くなっていることから、運動能力や運動習慣に二極化が生じていると考えられます。



第1章 目指す子どもの姿
四日市市が進める教育の基本的な考え方



中学校 実技調査種目別の全国・三重県との比較
※T得点：全国平均値を50として差を明確に表示したもの

種目別に見ると、中学校男女ともに長座体前屈、反復横跳び、ハンドボール投げについては毎年全国平均値を超えています。長座体前屈と反復横跳びについては、小学校男女とも全国平均値を超えていることから、四日市市の子どもたちは比較的、柔軟性や俊敏性が高いと言えます。

一方、男女ともに、握力、50m走、立ち幅跳びについては、毎年全国平均値を上回ることができず、特に走ることににおいては、小学校でも全国平均値を下回っていることから、本市の子どもが苦手としている種目といえます。走力を高めるために、体幹トレーニングを意識した「5分間運動」を定期的に取り入れたり、「全力で走る、動く」という要素の入った活動を、授業に多く取り入れたりするなど、授業での取り組み方に改善が必要です。

投てき力は、小学校で課題があるのに対し、中学校では強みとなっています。球技の授業の充実や運動部活動によるものと考えられますが、今後も授業において、「投げる」経験を多く取り入れる展開を工夫していく必要があります。

本市では、平成29年3月に体育・保健体育科授業で大切にポイントを示した「四日市版 体育授業ガイドブック」を作成し、各校に配布しました。

今後も、各教員の得手不得手に影響されることなく、子どもたちにつけたい運動能力や体力が向上するように取り組みを進めていく必要があります。

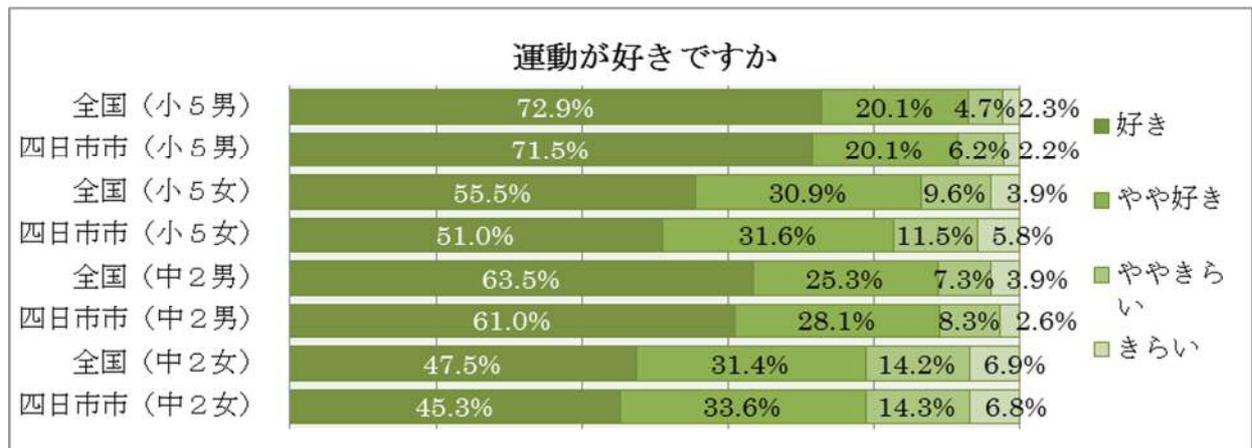
② 運動やスポーツに親しむ気持ち、発達段階に応じた運動習慣

成果指標			現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
②	「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか」において、「好き」と回答をした児童生徒の割合（%）	小	男子 75.0 (全国 74.0)	71.3 (73.0)	74.6 (73.2)	71.5 (72.9)			80
			女子 56.3 (全国 56.4)	54.2 (56.7)	53.2 (56.4)	51.0 (55.5)			60
		中	男子 66.3 (全国 65.0)	65.3 (63.6)	63.5 (63.4)	61.0 (63.5)			70
			女子 49.3 (全国 48.0)	50.0 (46.9)	46.0 (47.1)	45.3 (47.5)			53

※ 現状値は、平成 27 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（小学校5年生・中学校2年生対象）

全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問項目「運動（体を動かす遊びをふくむ）やスポーツをすることは好きですか。」の問いに対して「好き」と答えた児童・生徒は、小中ともに全国平均値を下回りました。小5女子においては、全国平均値との差が約4.5ポイントと最も大きくなっています。また、平成27年度をピークに年々、「運動が好き」と答える児童・生徒が下方傾向にあります。

「体力調査」の結果が向上している反面、「スポーツすることが好き」と回答した児童・生徒が減少していることを改善するために、発達段階に応じて、子どもたちが「やってみたい」「楽しい」「できた」という思いをもつことに加え、工夫しながら運動することの楽しさを味わうことができるような機会を充実させることが必要です。



③ 心と体を健やかに育む基本的な生活習慣の確立

成果指標		現状値*	H28	H29	H30	R1	R2	目標
③	「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値 (%)	小 89.2 (全国 88.7)	89.8 (88.8)	89.6 (88.8)	86.3 (86.8)			93
	中 86.0 (全国 86.9)	86.8 (86.9)	87.8 (87.1)	85.7 (85.5)			90	

※ 現状値は、平成27年度全国学力・学習状況調査結果（小学校6年生・中学校3年生対象）

全国学力・学習状況調査の質問項目「朝食を毎日食べていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」において、肯定的な回答をした児童生徒の割合の平均値を指標とし、小学校において93%、中学校において90%を目標値に設定しています。

本市の子どもたちの傾向として、小学校で、すべての項目において、全国平均値と同等またはやや低い値を示しました。特に、「朝食を毎日食べている割合」においては、全国比より高い値を続けていましたが、平成30年度の調査で初めてほぼ同等となるまで減少しました。

中学校では、「朝食を毎日食べている割合」「毎日、同じくらいの時刻に寝る割合」は全国平均値より高いものの、「毎日、同じ時間に起きる割合」は、平成29年度に引き続き、全国より低い値を示しています。

本市では、生活習慣が一定である児童・生徒ほど学力が高いことを示したリーフレット「四日市市の子どもたちの学力・学習状況や生活状況は？」を全保護者に毎年配布しています。今後も家庭との連携を図って、生活習慣の確立に向けた啓発を行っていきます。

